

自分らしさ

社会の時間が終わり、佳苗は本田先生を廊下で呼び止めた。

「先生、今日の地理の授業、おもしろかったです。」

「世界の民族衣装はおもしろいね。韓国のチマチョゴリやインドのサリー、日本の着物、それぞれのよさがあるよね。男性がスカートをはいてバグパイプを吹いているスコットランドの写真はどう思ったかな。」

「私、クラスの何人かが笑ったとき、先生がその人たちに『何がおかしい。』って注意してくれて、うれしかったんです。」

佳苗は続けて言った。

「私思ってたんですけど、ランドセルのカラーシヤルを見ると、男の子は黒や青、女の子は赤やピンクをもっていますよね。そういえば、いとこに赤ちゃんが生まれたので、ベビー服売り場に行ったんですけど、男の子と女の子では売り場がちがっていました。」

「そうだね、生まれたときから、服装や身に付ける物など、男の子らしいとか女の子らしいというふうに分かれているね。」

「でも先生、私は小さいときに、お兄ちゃんの着ていた青いジャンパーや黒いズボンが着たくて仕方がなかったとお母さんが言っていました。小学校に入学するときも、青いランドセルが欲しくて泣いていました。男の子の漫画ばかり見ていたら、男子から変な目で見られたこともあります。今だって、本当はスカートじゃなくてズボンをはきたいと思っっているんです。スカートは動きづらくて。」 佳苗は少し不満げに話した。

すると、本田先生は、

「佳苗さんだけでなく、そういう人は他にもいると思うよ。大人だって、男性はネクタイをめるだろう。就職の面接に男性がネクタイをしめないと行ったら、面接官はどう思うかな。多くの人があるんだと、いわゆる男性らしく、または女性らしくなっていくように社会そのものがなっていると言えるかもしれないね。」

「それは何となく分かるんですけど： スカートをきたくないなあ。」
佳苗がぼそつと言った。すると、本田先生は、真剣な顔つきになって、
「佳苗さん、性同一性障害って、聞いたことがあるだろう。体の性と心の性が一致しない人が
いるんだ。その人たちは、動きづらいつか、色や服装の好みなどではなく、体は男性だけど心は
女性、体は女性だけど心は男性なんだよ。性同一性障害のある人たちにとって、佳苗さんよりも
もつとくらしにくいことがあるんじゃないかな。大切なことは、自分らしさなのかもしれないね。」
佳苗はしばらく考えてから、本田先生に言った。
「分かりました、先生。考えてみます。次の授業が始まるので、明日また話を聞いてください
ね。」

自分らしさ

- 1 男性と女性の服装について考えましょう。
- 2 本田先生が「笑うところじゃない。」と注意したとき、佳苗さんは
どうしてうれしかったのでしょうか。
- 3 いわゆる男の子らしい、女の子らしいものにはどんなものがあります
か。また、このような今の社会をあなたはどう思いますか。
- 4 性同一性障害のある人のくらしにくさについて、佳苗さんはどんなこ
とを考えたと思いますか。
- 5 考えたことをもとにして、佳苗さんはどんな社会にしていきたいと
思ったでしょうか。

道徳学習指導案 例

- 1 対象学年 中学校第1・2学年
- 2 授業者 学級担任、養護教諭、人権教育担当教員、スクールカウンセラーなど
- 3 資料 自分らしさ
- 4 主題 4ー(3) 差別や偏見のない社会
- 5 本時のねらい
性同一性障害のある人の悩みや苦しみにについて考えることをとおして、差別や偏見をなくし、自分らしく生きていける社会を実現しようとする心情を養う。

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 男性と女性の服装について考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・男性はネクタイにズボン、女性はスカートというイメージがある。 ・最近は男女の差がなくなっているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒の意見を聞く。
展開	○資料の判読を聞く。 2 本田先生が「笑うところじゃない。」と注意したとき、佳苗さんはどうしてうれしかったのでしょうか。 3 いわゆる男の子らしいもの、女の子らしいものにはどんなものがありますか。また、このような今の社会をあなたはどのように思いますか。 4 性同一性障害のある人の暮らしにくさについて、佳苗さんはどんなことを考えたと思いますか。 5 考えたことをもとにして、佳苗さんはどんな社会にしていきたいと思ったでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がズボンをはきたいと思っているから。 ・興味本位でふざけてはいけないから。 ・ひな人形と五月人形 ・おもちゃ ・当たり前だと思っている。 ・よいものはよい。 ・使いにくい施設がある。 ・差別や偏見がある。 ・暮らしにくいことそのものがストレスだと思う。 ・相手の思いを理解し、お互いに思いやる社会 ・自分らしく生きていける社会 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が判読する。 ・性や文化などについて興味本位で笑った生徒を本田先生が厳しく指導したことに気付かせたい。 ・教員が善悪の価値観を示さないようにする。 ・性同一性障害のある人の立場に立って考えさせる。 ・自分らしく生きていける社会の実現には、差別や偏見をなくすことが大切であることにふれる。
終末	○教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の悩みや苦しきは、趣味やわがままではないんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事や内閣府のデータを使うなどの工夫する。

- 5 評価
性同一性障害についての差別や偏見をなくし、誰もが自分らしく生きていける社会を実現しようとする心情を養うことができたか。
- 6 参考資料
 - ・DVD「セクシャル・マイノリティ理解のために
～子どもたちの学校生活とところを守る～
”共生社会をつくる”セクシャルマイノリティ支援全国ネットワーク
 - ・人権教育プログラム 東京都教育委員会 など